MedicalUse による看護必要度集計

MedicalUse では DPC データの EF ファイル、H ファイルから看護必要度の集計が行えます。
集計するために必要なマスタは同梱していますので、利用者が用意するのは、EF ファイル、H ファイルだけです。
EF ファイル、H ファイルは、ご使用中の医療情報システム（電子カルテ、医事システム）からの出力を想定しています

１．MedicalUse の入手及びセットアップ

https://www.vector.co.jp/soft/winnt/business/se520647.html　より入手しセットアップを行います。

２．MedicalUse へのログイン及び必要度集計の機能ボタン

ログインＩＤ：　user
パスワード　：　user

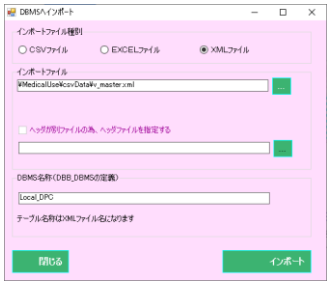
ランチャー　→　基幹システムのボタンより行います

① 看護必要度令和２年度
　看護必要度の一覧、集計ＳＱＬの実行
② DPC データのインポート
　DPC データの EF ファイル、H ファイルのインポート処理
③ 看護必要度展開処理
　評価対象日数分のデータ作成
④ 必要度展開パラメータ設定
　評価対象日数分のデータ作成のためのパラメータ設定

３．同梱マスタのインポート（ＥＦ、Ｈファイルのインポートから行います）

コードマスタ、病棟マスタのインポートを行います。
¥...¥Documents¥MedicalUse¥csvData フォルダにサンプルマスタがありますので必要に応じて編集しインポートします。

ward.txt　　：病棟マスタ
　　（1:一般病棟、2:特定集中治療、
　　3:ハイケアユニット、4:地域包括の振分用）
datadev.txt　　：データ区分
dataward.txt　　：データ病棟区分
department.txt　：診療科
v_master_XXXXXXXXXXX.xlsx
　　：レセプト電算処理システム用コードマスタ
　　（厚労省で公開しているデータ）

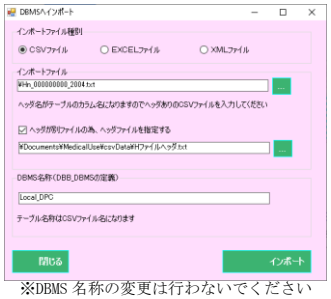


※DBMS 名称の変更は行わないでください

４．DPC データのインポート

EF ファイル、H ファイルのインポートを行います

ファイル名を以下に合わせます
EF ファイル：　EFn_000000000_YYMM.txt
H ファイル　：　Hn_000000000_YYMM.txt
※000000000 、YYMM はそれぞれ施設コード、年月に置き換えてください



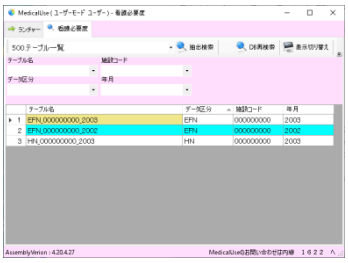
※DBMS 名称の変更は行わないでください

ヘッダ行がある EF ファイルはそのままインポートしてください。
ヘッダ行がない EF ファイル、H ファイルは同梱しているヘッダファイルを選んでください。
月を跨ぐデータを取得するには、２か月分の EF ファイルをインポートします。

５．インポートデータの確認

「看護必要度」ボタン　→　500.データ一覧　でインポートデータ一覧が確認できます。

インポートデータは、ファイル毎に一つのテーブルとして登録されます。



６．看護必要度展開処理

EH ファイルの評価対象日数分に満たないデータを、指定日数分展開します。
展開時の設定は「必要度展開パラメータ設定」で指定します。
設定できる項目は以下になります。

◆専門的な治療・処置（②抗悪性腫瘍剤の内服の管理）
- 展開しない
- 院内処方の展開（処方日数分）
- 持参薬、院内処方の展開

◆緊急に入院を必要とする状態
- 取得なし
- 救急医療管理加算の取得（評価対象日数分）
  （夜間休日救急搬送医学管理料を含む）

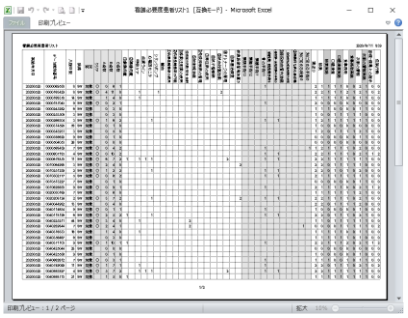
◆C 項目（手術展開の設定）
- 展開なし
- 展開あり（それぞれの評価対象日数分）

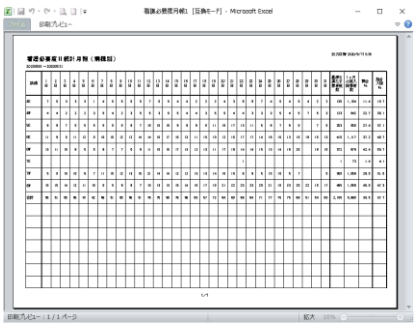
※設定変更により、展開した場合の集計も可能になります

７．看護必要度の一覧、集計ＳＱＬの実行

予め、以下の SQL を準備しています。

- 500.データ一覧
- 510.レセプト電算処理システム用コード一覧
- 512.病棟タイプ一覧
- 520.EF ファイル一覧
- 530.H ファイル一覧
- 550.看護必要度リスト（帳票出力）
- 580.看護必要度月報（帳票出力）





詳細な集計仕様については「実は簡単、看護必要度集計　－　MedicalUse のリリース」（ https://syskobo.hatenablog.com/entry/20200507/1588835403 ）を参照してください。

※自前で集計 SQL を作成する場合は、「ローカル SQL」が利用できます
詳しくは「実は簡単、看護必要度集計　－　SQL が解る上級者向け」
（ https://syskobo.hatenablog.com/entry/20200604/1591251276 ）を参照してください。